

添付資料1.
生物多様性あなん戦略策定経過

生物多様性あなん戦略策定経過

年度	阿南市一高専連携事業区分	主な内容
2012 平成24年度	阿南市－阿南高専連携事業「阿南地域における生物多様性保全・活用の手法検討」	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性に関する意識調査（N=1879）実施 ・専門家ヒアリング（15名）実施
2013 平成25年度		<ul style="list-style-type: none"> ・ホットスポット候補地の生物調査および下見の実施 ・生物多様性フォーラム（第1回）開催 ・阿南市広報掲載「豊かな自然が生み出す阿南の魅力と可能性～生物多様性の視点から地域の活性化を考える～」
2014 平成26年度		<ul style="list-style-type: none"> ・ホットスポット選定委員会開催（4回） ・生物多様性フォーラム（第2回）開催 ※「未来へつなごう！あなんのごっつい自然～阿南市生物多様性ホットスポット～」の報告
2015 平成27年度	阿南市－阿南高専連携事業「阿南市生物多様性ホットスポットモデル事業の運営」	<ul style="list-style-type: none"> ・「伊島ささゆり保全の会」設立と協議会運営（平成27年12月5日設立） ・阿南市広報掲載「未来へつなごう！あなんのごっつい自然～阿南市生物多様性ホットスポット～」を紹介 ・生物多様性フォーラム（第3回）開催 ※自然再生協議会への移行検討
2016 平成28年度		<ul style="list-style-type: none"> ・「伊島ささゆり保全の会」協議会開催（4回） ・自然再生協議会全国会議参加 ・生物多様性フォーラム（第4回）開催
2017 平成29年度		<ul style="list-style-type: none"> ・「伊島ささゆり保全の会」協議会開催（3回） ・自然再生協議会全国会議参加 ・生物多様性フォーラム（第5回）開催
2018 平成30年度	阿南市一高専連携事業「阿南市生物多様性保全・活用事業」「生物多様性あなん戦略（仮称）策定事業」	<ul style="list-style-type: none"> ・「伊島ささゆり保全の会」協議会開催（2回）事務局会議（1回） ・自然再生協議会全国会議参加 ・生物多様性フォーラム（第6回）開催 ※「伊島ささゆり保全の会」が国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）による連携事業に認定 ・生物多様性に関する市民意見抽出（N=505） ・ホットスポットワークショップ（2回） ・関係部局ヒアリング（10部局） ・阿南市環境調整会議（部会含む2回） ・第1回生物多様性あなん戦略策定委員会開催 ・ワーキング会議（1回）
2019 平成31年度 令和元年		<ul style="list-style-type: none"> ・「伊島ささゆり保全の会」協議会開催（2回）事務局会議（1回） ・生物多様性フォーラム（第7回）開催 ・阿南市環境調整会議（部会含む3回） ・ワーキング会議（1回） ・第2回生物多様性あなん戦略策定委員会開催 ・パブリックコメント ・第3回生物多様性あなん戦略策定委員会開催 ・「生物多様性あなん戦略」策定（11月） ※阿南市環境保全推進功労者賞「阿南高専連携事業（生物多様性保全活用）担当」 ・阿南市広報掲載「あなんの”ごっつい自然”でまちを元気に！生物多様性あなん戦略」

添付資料2.
阿南市生物多様性ホットスポット選定委員会設置要綱

阿南市生物多様性ホットスポット選定委員会設置要領

平成26年4月1日
阿南市環境保全課

（目的及び設置）

第1条 この要領は、阿南市における生物多様性の現状や分析や課題の抽出を行うと共に、生物多様性の保全・再生及び持続可能な利用について、施策の方向性や具体的な行動計画を検討するため、「阿南市生物多様性ホットスポット選定委員会」（以下「委員会」という。）を設置するものとする。

（所掌事項）

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を検討する。

- (1) 阿南市における生物多様性を保全する上で重要な地域の選定に関する事項。
- (2) 阿南市における生物多様性保全に必要な専門的事項。
- (3) その他委員会の目的達成するため必要な事項。

（組織）

第3条 委員会は、委員14人以内で組織をし、別表のとおり市長が委嘱する。

（任期）

第4条 委員の任期は、生物多様性ホットスポット選定に関する事務が終了するときまでとする。

（委員長）

第5条 委員会には、委員長を置き、委員のうちから互選する。

2 委員長は、委員会の議事運営に当たる。

3 委員長に事故があるときには、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

（召集）

第6条 委員会は、委員長が必要に応じて招集する。

2 委員会は、必要に応じて委員以外の者の意見を聞くことができる。

（事務局）

第7条 委員会の事務を処理するため、阿南市市民部環境保全課に事務局を置く。

（雑則）

第8条 この要領に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長がこれを定める。

附 則

1 この要領は、平成26年4月1日から施行する。

別表（第3条関係）

	役職	氏名	所属・役職等	専門分野
1	委員長	湯城豊勝 ゆうき	阿南工業高等専門学校 (創造技術工学科教授)	工学
2	委員	古川良夫	KITT の会理事	植物
3	委員	鎌田 武	KITT の会ウミガメ部	ウミガメ
4	委員	大原賢二	前徳島県立博物館館長	昆虫
5	委員	吉田和人	日本野鳥の会徳島支部会員	鳥類
6	委員	松田春菜	四国大学 学修支援センター 特別研究員	陸生貝類
7	委員	田代優秋 ゆうしゅう	公害地域再生センター 研究員	淡水魚類
8	委員	岡本新三郎	市民代表委員（伊島町代表）	元町会長
9	委員	田村明敏	市民代表委員・阿南市市史編纂室長	
10	委員	撫中義美	市民代表委員	
11	委員	大田直友	阿南工業高等専門学校 (創造技術工学科准教授)	底生動物
12	委員	川上周司	阿南工業高等専門学校 (創造技術工学科助教)	工学
13	委員	高島武己	阿南市 産業部長	市行政関係
14	委員	陶久敏郎	阿南市 市民部長	市行政関係

添付資料3.

「未来へつなごう！あなんのごっつい自然

～阿南市生物多様性ホットスポット～」の報告

「未来へつなごう！あなんのごっつい自然
～阿南市生物多様性ホットスポット～」
の報告

平成 26 年 11 月 25 日

阿南市生物多様性ホットスポット選定委員会

はじめに

阿南市は世界に誇れる豊かな自然環境を有し、多くの貴重な生物が生育・生息しています。私たちの生活は、その豊かな自然から、たくさんの恵みを享受し暮らしています。

阿南市の誇りであるこの豊かで素晴らしい自然環境が、健全な状態で未来へ引き継がれるよう、「未来へつなごう！あなんのごっつい自然～阿南市生物多様性ホットスポット～」を選定しました。

1 定義

「未来へつなごう！あなんのごっつい自然～阿南市生物多様性ホットスポット～」とは

- 希少種や固有種など貴重な生物が確認される場所であり、阿南市が世界に誇れる場所です
- 豊かな自然が残されている、もしくは地域の人たちによって生物多様性に配慮した保全活動が実施されている場所であり、阿南市民が親しみ、愛し、尊ぶ価値のある場所です
- 次世代に胸を張ってバトンタッチできるよう、持続可能な利用と保全の両立が期待される場所です

2 選定委員会開催までの過程から候補地の選定

阿南市地域における生物多様性保全・活用の手法検討を行うため、平成24年度からの阿南市と阿南工業高等専門学校との連携事業において、「阿南市地域における生物多様性の現状についての研究専門部会」が設けられました。その専門部会によって、生物に関する多様な分野の専門家14名と那賀川の希少種情報を把握している国土交通省四国地方整備局那賀川河川事務所に対し、平成24年5月～10月にかけてヒアリングを実施しました。その後、推薦のあった場所の他に、生態系サービスにおける文化的サービスにあたる場所や観光名所も含め、阿南市に関係する成人等にアンケートを実施し（回収数1,879）、守りたい場所とその理由を尋ね、場所に対する認知度などを調べました。

3 選定委員会による選定方法

候補地の概要や市民による認知度の他に、生物についての情報を文献などから追加し、選定するための資料を作成しました。

選定の際の評価では「保全すべき自然環境の特質」として、①希少性・固有性の存在 ②地域のシンボル的自然環境・生物 に注目し、さらに ③保全活動の状況 ④生態系サービス についても考慮しました。

上記資料をもとにした委員による候補地の評価を踏まえ、以下の基準で検討を経て選定地を決定しました。（委員による評価結果：資料1）

- 各項目の合計評価値を委員数で平均化し、その値が3.5以上であること（評価は「大いに評価できる、評価できる、普通、あまり評価できない、評価できない」の5段階で実施し、それぞれ5, 4, 3, 2, 1に点数化した）
- 希少性・固有性の評価数値が高いこと

4 選定結果

4.1 「未来につなごう！あなんのごっつい自然～阿南市生物多様性ホットスポット」選定地

- 選定箇所数：6箇所
- 選定場所：伊島、蒲生田、太龍寺近辺、出島野鳥園、那賀川・桑野川河口域、桑野川上流

各選定場所についての範囲や希少種等の情報を次に示します。

記載した希少種情報は、阿南市史や徳島県植物誌、郷土史発表会紀要などを参考にしました。

◆伊島

範囲	3つの島（伊島、前島、棚子島）	
評価	①希少性・固有性	環境省レッドデータリスト（RDL）記載種=26種、徳島県 RDL=50種 日本の重要湿地500に選定されている
	②シンボル性	ササユリがシンボル的生物 市民の守りたい場所 第2位（市民アンケート）
	③保全活動	ササユリの保全活動が長期間継続されている
	④生態系サービス	豊かな水産資源（供給サービス） 独自の文化が今も継承されている（文化的サービス） 希少種や固有種を育む場所（生息・生育地サービス）

◆蒲生田

範囲	岬や海浜、大池を含む地域	
評価	①希少性・固有性	環境省 RDL 記載種=11種、徳島県 RDL=25種 日本の重要湿地500に選定されている
	②シンボル性	アカウミガメがシンボル的生物、 市民の守りたい場所 第1位（市民アンケート）
	③保全活動	アカウミガメの保護条例、 保全のための清掃活動や調査が長期間継続されている
	④生態系サービス	県指定希少野生生物であるオオクグの生息地が保護されている 美しい景観が多くの中内外の人々に愛されている（文化的サービス） 希少種や固有種を育む場所（生息・生育地サービス）

◆太龍寺近辺

範囲	那賀川の南側から太龍寺に至る遍路道周辺を含めた地域	
評価	①希少性・固有性	環境省 RDL 記載種 = 16 種, 徳島県 RDL = 32 種 固有種としてカタツムリが 2 種確認されている
	②シンボル性	近年新種となったカタツムリ（アナムシオイガイ）がシンボル的生物 市民の守りたい場所 第 3 位（市民アンケート）
	③保全活動	遍路道の保存活動が実施されている カタツムリを中心とした自然保護活動
	④生態系サービス	遍路道や太龍寺など文化を育む自然環境（文化的サービス） 希少種や固有種を育む場所（生息・生育地サービス）

◆出島野鳥園

範囲	出島野鳥園とその周辺	
評価	①希少性・固有性	環境省 RDL 記載種 = 23 種, 徳島県 RDL = 47 種
	②シンボル性	近年新種となったカタツムリ（アナムシオイガイ）がシンボル的生物 市民の守りたい場所 第 3 位（市民アンケート）
	③保全活動	遍路道の保存活動が実施されている カタツムリを中心とした自然保護活動
	④生態系サービス	遍路道や太龍寺など文化を育む自然環境（文化的サービス） 希少種や固有種を育む場所（生息・生育地サービス）

このほかにも、委員から次の 8箇所について、選定地に準ずる場所としての推薦や今後の検討により選定地になり得る場所としての推薦がありました。長期計画に基づく再選定制度は自然環境や社会状況の変化に対応するためにも必要であり、いずれの場所も今後の調査や保全活動により、「未来へつなごう！あなんのごっつい自然～阿南市生物多様性ホットスポット～」として選定される可能性が高いため、以下に記載しました。

◆那賀川・桑野川河口域

範囲	河口一帯	
評価	①希少性・固有性	環境省 RDL 記載種 = 26 種, 徳島県 RDL = 54 種 固有種としてカジカ小卵型が挙げられる
	②シンボル性	河口一帯が阿南市の豊かな自然を代表する場としてシンボルになっている シオマネキがシンボル的生物 市民の守りたい場所 第 6 位（市民アンケート）
	③保全活動	河川として国による保全や規制、管理がされている
	④生態系サービス	豊かな水産資源（供給サービス） 希少種や固有種を育む場所（生息・生育地サービス）

4-2. 選定地に準ずる推薦場所

委員からの推薦はありましたが、「評価項目のいずれかの数値が、3.5 よりも低い」、「希少性・固有性の評価があまり高くない」という 2 点により委員会では選定されませんでした。しかし、貴重な自然環境であることには変わりなく、今後のさらなる調査や保全活動の推進が望されます。

◇明神山

範囲	頂上から山麓にかけての一帯	
評価	①希少性・固有性	情報不足により評価ができない
	②シンボル性	アサギマダラがシンボル的生物 長期間にわたりマーキング調査が実施されている 市民の守りたい場所 第 14 位（市民アンケート）
	③保全活動	アサギマダラの渡りの時期に考慮した草刈りが行われている
	④生態系サービス	眺望が評価されている（文化的サービス） 多様な生物を育む場所（生息・生育地サービス）
考慮すべき点	「希少性・固有性」の評価及び「生態系サービス」の評価が 3.5 よりも低かったことから選定されなかった。一方、自然環境下におけるアサギマダラの渡りに関する調査が長期間実施されていることが評価され、「保全活動」の項目において評価が高かった。今後、生物調査が実施されることによる希少性・固有性の情報集積やこの地域による生態系サービスの再確認により、阿南市の生物多様性ホットスポットとして選定される可能性は高いと考えられる	

◆桑野川上流

範囲	オヤニラミの生息範囲（範囲については調査が必要である）	
評価	①希少性・固有性	環境省 RDL 記載種 = 12 種, 徳島県 RDL = 29 種
	②シンボル性	オヤニラミ（徳島県天然記念物；地域指定）がシンボル的生物
	③保全活動	オヤニラミの保全活動が長期間継続されている
	④生態系サービス	遍路道や平等寺など文化を育む自然環境（文化的サービス） 希少種を育む場所（生息・生育地サービス）

◇津峯山

範囲	頂上から山麓にかけての一帯	
評価	①希少性・固有性	環境省 RDL 記載種 = 5 種、徳島県 RDL = 2 種
	②シンボル性	シンボル的生物として特定の生物は挙がっていないが、津峯山一帯が阿南市の豊かな自然と信仰の場としてシンボル的存在になっていると考えられる 市民の守りたい場所 第4位(市民アンケート)
	③保全活動	参道の保全活動は実施されている
	④生態系サービス	信仰の場(文化的なサービス) 多様な生物を育む場所(生息・生育地サービス)
考慮すべき点	「希少性・固有性」の評価及び「保全活動」の評価が3.5よりも低かったことから選定されなかった。一方、信仰の場として阿南市のシンボル的場所となっていることから「生態系サービス」の評価が高かった。現在、太陽光発電の設置など開発も進んでおり、持続可能な利用と保全について様々な団体と共に保全計画や活動を検討することが望ましい。また、今回収集できた生物情報が少なかったことから、生物調査によって希少性・固有性の情報集積の必要がある。原生林が残されていることもあり、新たな生物情報がさらなる生態系サービスの評価につながることも考えられる。	

4-3. 今後の検討により選定地になりえる場所

委員からの推薦がありましたが、情報が少なく、委員会の中で自然の豊かさや生態系サービスなどの価値を共有しきれなかったために、選定から外れた場所です。再選定にあたっては、生物調査と市民への情報発信ヒアリングが必要だと考えます。

◇椿川

評価点	伝統漁法によるシロウオ漁が現存していることが評価された 河口の自然環境について高く評価された
憂慮点	生物情報の集積が少ない シロウオが絶滅危惧種であることへの理解が少ない オヤニラミの人工放流による遺伝子の変異が懸念される状況が報告されている

◇中林～淡島の海浜と松林

評価点	防災林及び景観としての価値 ハルゼミの貴重な生息地 松林については地域の人による保全活動が実施されている 広い砂浜としての価値 多様な植生(海岸林と海浜植物) 市民の守りたい場所として、中林は第5位、淡島は第8位(市民アンケート)
憂慮点	生物情報の集積が少ない 貴重な生物の生息場としての知名度が低い

◇鎮守の森

評価点	県指定文化財として樹木や樹林が指定を受けている寺社が市内に11箇所ある 原生林が残されている貴重な場所 希少種の営巣場になっているところもある 市民の守りたい場所 第16位(市民アンケート)
憂慮点	親しまれているが、「保全する場所」として認識されていない 選定する場合、「範囲」の検討が必要 保全のしくみについても多様な団体との検討が必要だと考える

◇大潟の干潟

評価点	シオマネキやトビハゼなど希少な生物が生息している 藻場が広がっており、干潟だけでなく浅海一帯が多様な生物の生息場であると考えられる (日本の重要湿地500に選定されている) アクセスがしやすく、生物観察や環境学習の場として活用しやすい 市民の守りたい場所 第12位(市民アンケート)
憂慮点	生物情報の集積が少ない 貴重な生物の生息場として知名度が低い

◇大津田川近辺

評価点	希少な水生植物が確認されている(環境省 RDL = 10 種、徳島県 RDL = 11 種) 日本の重要湿地 500 に選定されている(大津田川流域の用水路網)
憂慮点	現況が不明である 農業用水路が整備され、水生植物の生息場が減少している

◇午尾の滝

評価点	滝の景観としての価値 市民の守りたい場所として第13位(市民アンケート)
憂慮点	生物情報の集積が少ない

5 保全の方針及び実施について

選定場所について、保全や持続的な利用の方針を十分に検討し、その手立てとしての方法や達成目標を明確にすることが重要です。その際、希少種等が盗掘や過剰採集にさらされないよう、希少種の種名や生息・生育場所などの情報について取り扱いを注意する必要があります。

保全や利用については、様々な利害関係者と推進体制をつくって協議し、民産官学の協働で活動していくことが、継続と成功につながります。活動にあたり、計画や結果への外部評価と定期的な改善ができる仕組みを整えることは、選定場所の保全と持続的な利用において重要だと考えます。

次にあげる保全計画は、選定地を保全し持続可能な利用をしていくために、阿南市における課題として抽出された意見をもとに立案しました。

保全を実施するうえでの方針は以下の4つです。

①協働の支援

地域の方や関係する団体が、協働で保全や利用のために活動できるように、支援することが望ましい

②教育や情報発信の支援

阿南の豊かな自然を知り、その保全の大切さを理解し、守り育てる行動につながるよう、教育や情報発信などの支援に取り組むことが望ましい

③制度維持の支援

貴重な生物がすむ選定地を保全し続けるために、定期的な情報収集や選定地の再評価を支援することが望ましい

④両立策の支援

将来にわたって自然の恵みを享受できるよう、選定地の保全と利用の両立を目指す市民の創意工夫にあふれた活動を支援することが望ましい

それぞれの目標を達成するための行動計画案を次に記します。

②教育や情報発信の支援

- 5) 地域の方や関心のある方が活動に参加しやすいように、定期活動を定着化する
さらにその場を、現状や課題、活動経過などの情報を共有する場としても活用する
- 6) 地域の方が愛着と誇りを持って選定地を紹介できるよう、学校や公民館などに学びの場を開設する
- 7) 選定について理解を深め、保全や利用に関心を持つてもらえるよう、冊子などを作成し情報を発信する

③制度維持の支援

- 8) 選定地や候補地の評価を定期的に実施し、保全の状況や課題の共有や、保全計画の修正を行う
- 9) 専門家による調査の実施や、県や研究機関との連携による知見情報の共有を行い、選定地や候補地の再評価や保全活動に活用する
- 10) 市民による生物多様性に関する調査に対し、アドバイスができる仕組みを作るとともに、提供された情報を選定地や候補地の再選定に活用できるような仕組みを構築する
- 11) 専門家による調査データだけでなく、市民による調査データも含め、生物多様性に関する情報を蓄積・整理する機関を設置する

④両立策の支援

- 12) 持続可能な産業の発展に向け、選定地の生物多様性に配慮した農業や水産業により得られた産物を認証し、新たな価値を賦与する仕組みを構築する
- 13) 市民からの創意工夫にあふれる活動の提案を受け、協働する方法などについて検討する

おわりに

今回選定した「未来へつなごう！あなんのごっつい自然～阿南市生物多様性ホットスポット～」が、阿南市の豊かな自然の保全や持続的な利用を促進するきっかけとなることを望みます。選定においては、各候補地の生物調査は実施しておらず、既存の情報をもとにしています。選定の見直しを定期的に実施していくためには、継続的な調査とデータの蓄積が必要であると考えます。

今回の選定をゴールとせず、次に挙げるような活用にもつながっていくよう、今後も継続的に検討していくことを希望します。

- 「ものづくり」の活性や後押しとしての活用
- 「エコツアーや持続的な利用」のモデルとなるような活用
- 「教育」における活用
- 「研究の場」としての活用
- 「阿南市を世界にアピールするための魅力」とする
- 「郷土愛を深める」ことにつなげる
- 「UターンやIターンなど移住促進・定住化」につながる活用

①協働の支援

- 1) 多様な団体や個人が選定地の保全や利用に協力し合える関係を築き、課題などの情報の共有や、保全や利用の方針や計画、実施方法などの検討を行うため、協議会を設立する
- 2) ポランティアの受け入れやマッチングを行えるよう、窓口を設置する
- 3) 協議会などの場において、活動資金の確保のためのしくみづくりや外部資金獲得について検討する
- 4) 企業などの団体が特定の選定地の保全や利用の活動に関わるアドプト制度等を設立する
(ホットスポットアドプト制度)

語彙説明

希少種	きょうしゅ	絶滅寸前や絶滅が心配されている生物、絶滅の危険性が高いと判断された生物のこと
固有種	こゆうしゅ	限られた地域に分布する生物種
持続可能な利用	じぞくかのうなりよう	長い間、自然がもつ循環する力や浄化する力、もとに戻る力、増える力などを超えない範囲で利用し続けること
生態系サービス	せいたいけいさーびす	生物多様性がもたらす多くの自然の恵み 大きく4つに分類されている ・供給サービス：食べ物や水、木材、繊維など ・調整サービス：水の浄化や気温の調節、花粉の媒介、森の貯水機能など ・文化的サービス：自然環境を楽しんだり、信仰の対象となったりする ・生息・生育地サービス：上記3つのサービスを支えるための、生物が生きていいくための環境を提供すること 『環境省環境影響評価情報支援ネットワーク 生態系と生物多様性の経済学（TEEB）』
生物多様性	せいぶつたようせい	生き物たちの豊かな個性とつながり『環境省の説明』 すべての生物の間に違いがあること『生物多様性条約の説明』 生物多様性には、生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性の3つの階層的な多様性がある
ホットスポット	ほっとすぱっと	局地的に何らかの値が高かったり、何らかの活動が活発であったりする地点・場所・地域
保全	ほぜん	ある程度手を加えながら自然や自然資源を管理して守ること 『国際自然保護連合の保全の考え方』
レッドデータリスト	れっどでーたりすと	絶滅のおそれのある生物種のリスト

添付資料4.

生物多様性あなん戦略策定委員会設置要綱

阿南市要綱第47号

生物多様性あなん戦略策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 阿南市における生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する基本的な事項を定めた「生物多様性あなん戦略」(以下「戦略」という。)の検討を行うため、生物多様性あなん戦略策定委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(検討事項)

第2条 委員会の検討事項は、次のとおりとする。

(1) 阿南市の生物多様性に関する現状、課題等の整理に関すること。

(2) 戰略の対象区域、期間、基本方針・理念及び目標に関すること。

(3) 施策・行動計画の立案及び体系化に関すること。

(4) 推進体制・進行管理の仕組みに関すること。

(5) その他戦略策定のために必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員15人以内をもって組織する。

2 委員は、環境問題に関し知識経験を有する者、関係団体等のうちから市長が任命又は委嘱する。

3 委員の任期は、任命又は委嘱された日から戦略が策定される日までとする。

4 委員(その代理の者を含む。)が委員会の会議に出席したときは、予算の定めるところにより報償金を支払う。ただし、公務により会議に出席した公務員たる委員に対しては、報償金を支払わないものとする。

(委員長)

第4条 委員会に、委員長を置く。

2 委員長は、委員の互選によりこれを定める。

3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き議決することができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 委員長が必要と認めるときは、委員会に委員以外の関係者の出席を求め、関係事項について説明又は意見を聞くことができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、市民部環境保全課において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮ってこれを定める。

附 則

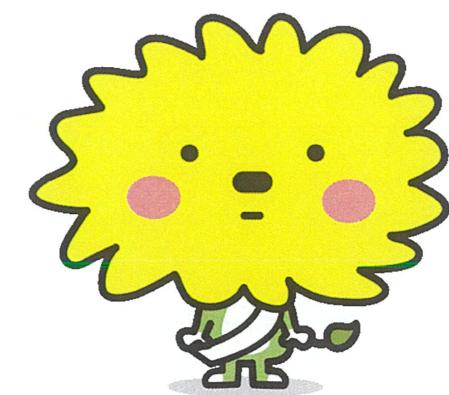
この要綱は、平成30年9月26日から施行する。

別表（第3条関係）

添付資料5.

阿南市生物多様性フォーラムチラシ（第1回～第7回）

	役職	氏名	所属・役職等	専門分野
1	委員	大田直友	阿南工業高等専門学校 創造技術工学科准教授	生態学
2	委員	松田春菜	四国大学 全学共通教育センター講師	生物学
3	委員	細川威典	鳴門教育大学教員教育国際協力センター 国際協力コーディネーター	教育
4	委員	神野範雄 (第1回) 川西藤彦 (第2,3回)	伊島ささゆり保全の会会長	ホットスポット (伊島)
5	委員	岡本憲治	蒲生田常会会員	ホットスポット (蒲生田)
6	委員	青木朋也	国土交通省四国地方整備局那賀川河川事務所 調査課長	ホットスポット (那賀川)
7	委員	宮本 勇	日本野鳥の会徳島県支部会員	ホットスポット (野鳥園)
8	委員	谷崎憲佑	オヤニラミの会代表	ホットスポット (新野)
9	委員	山上眞和	加茂谷元気なまちづくり会会員	ホットスポット (加茂谷)
10	委員	貞本秀昭	日亜化学工業(株) 総合部門 環境安全本部 本部長	
11	委員	島村幸一 (第1回) 炭谷幸男 (第2,3回)	阿南農業協同組合常務理事	
12	委員	湯浅隆幸	阿南商工会議所 専務理事	
13	委員	永長大輔	環境省 中国四国地方環境事務所 四国事務所国立公園保護管理企画官	市行政関係
14	委員	河崎敏之 (第1回) 里圭一郎 (第2,3回)	徳島県 県民環境部 環境首都課 課長	
15	委員	長田浩一	阿南市 市民部 部長	



生物多様性フォーラム

～生き物から見た阿南市の魅力再発見～



日時

平成 26 年

2月8日土

入場
無料

13:30～16:00 (受付開始 13:00)

場所

阿南ひまわり会館 2階 ふれあいホール

阿南市富岡町北通 33 番地 1 TEL:0884-23-6600

講演

さまざまな分野の3名の方に、専門的な立場から阿南の魅力を語っていただきます

- 伊島、良い島、すごい島
東邦大学理学部 教授 長谷川 雅美氏
- 伊島のササユリがもたらす生物多様性
九州大学工学研究院 特任助教 横田 静香氏
- 阿南のかたつむり知られざるその多様性と魅力
徳島県立佐那河内いきものふれあいの里
ネイチャーセンター 専門研究員 松田 春菜氏

主催

阿南市 • 阿南工業高等専門学校

共催 阿南市KITT賞賛推進会議 ● 問合せ: 阿南市環境保全課
TEL:0884-22-3413

第2回 生物多様性フォーラム

未来へつなごう! あなんのごっつい自然

日 時 平成 27 年 2 月 21 日 (土) 13:30～16:30 (受付開始 13:00)

会 場 阿南ひまわり会館 2階 ふれあいホール
(阿南市富岡町北通 33 番地 1 TEL:0884-23-6600)

入場料 無料

内 容

- ホットスポットの公表
- 講演: 豊かな自然を守り活用するヒントを紹介していただきます
「伊島、良い島、すごい島」
東邦大学理学部 教授 長谷川 雅美氏
- 「滋賀県山門水源の森の保全と地域住民の関わり」
山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会 事務局長 藤本 秀弘氏
- 「佐渡におけるトキの野生復帰を通じた連携・協働による生物多様性保全」
国土交通省国土管理企画室 専門調査官 岩浅 有記氏

主 催
共 催

阿南市 • 阿南工業高等専門学校

阿南市 KITT 賞賛推進会議

問合せ

阿南市環境保全課

TEL:0884-22-3413

阿南市合併10周年記念事業・第3回生物多様性フォーラム

「ササユリの香りただよう伊島」

森里川海ミニフォーラム in 阿南市



生物の多様性、
森里川海の恵み、
地域のあしたを考える

定員100名
参加費無料

日時：平成28年2月13日（土）13:00～（受付12:30～）

会場：阿南ひまわり会館 ふれあいホール

〒774-0030 徳島県阿南市富岡町北通33番地1 TEL 0884-23-6600

プログラム

13:00 開始

- ・挨拶：（主催：環境省 / 共催：阿南市長 岩浅嘉仁）
- ・プロジェクト説明（環境省自然環境局自然環境計画課 課長 鳥居敏夫）

13:20 基調講演 「人と自然のつながり～かく乱と共生～」

国立環境研究所 主席研究員 五箇公一氏

14:20 事例発表 ①「未来へつなごう！あなんのこっつい自然
～阿南市生物多様性ホットスポット～」

国立高専機構・阿南高専 渡辺雅子氏

②「伊島、いい島～ぼくたちのササユリ保護活動～」

阿南市立伊島中学校 生徒のみなさん

③「新野高校における伊島のササユリの保護・増殖活動

～バイオテクノロジーを活用した環境保全への取組み～」

徳島県立新野高等学校 生徒のみなさん

15:05 フォーラム総括、参加者による意見交換、メッセージ記入

16:00 終了（予定）会場には、阿南市公認イメージアップキャラクター「あなん」「つなげよう、支えよう 森里川海」プロジェクトアンバサダー「アヒル隊長」が訪れ、記念撮影を行う予定です。

＜応募方法＞ 「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト公式ホームページ（環境省ホームページ）
<http://www.env.go.jp/nature/morisatokawaumi/> よりお申ください。 まずは検索で 検索 森里川海

＜応募締切＞ 平成28年2月12日（金）

＜問い合わせ先＞ 「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト全国リレーフォーラム事務局

電話番号：03-3505-1253 E-mail：info@morisatokawaumi.jp までお問い合わせください。

開設時間：平日10:00～18:00（土・日・祝祭日、平日12:00～13:00を除く）

主催：環境省、四国環境パートナーシップオフィス（四国EPO）

共催：阿南市、独立行政法人国立高等専門学校機構阿南工業高等専門学校

協力：生物多様性とくしま会議、とくしま環境県民会議、四国生物多様性ネットワーク



主旨説明

生物の多様性、森里川海の恵み、地域のあしたを考える

環境省が取り組む「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトや生物多様性ホットスポットの先進地である伊島での希少種保護活動を紹介し、森里川海をつなげる地域の取組・自然資源の活用による地域活性化に向けた取組の環を広げ、阿南市の豊かな森里川海と地域づくりの“これから”を考えます。

なお、本フォーラムは、阿南市合併10周年記念事業・第3回生物多様性フォーラムとして開催いたします。

講師紹介



五箇 公一（ごか こういち）氏

国立環境研究所主席研究員。農学博士。

主な研究分野は保全生態学で、外来生物や化学物質による生物多様性への影響評価を進めている。様々な生物種の研究に携わるが、専門はダニ学で、ダニをこよなく愛する。CGイラストを描くのが趣味で、ダニのCGを天皇陛下と美智子様に献上したのが生涯最大の自慢。

著書は「クワガタムシが語る生物多様性」、「リスク学事典」、「ダニの生物学」など。また「NEWS WEB (NHK)」「クローズアップ現代(NHK)」「世界一受けたい授業(日テレ)」「林修の今でしょ！講座(朝日)」「ビートたけしのTVタックル(朝日)」「全力！脱力タイムズ(フジ)」などのTV番組に出演。

参加校プロフィール



【阿南市立 伊島中学校】

昭和26年より、下草刈りと計画的な採取による保護活動を継続。平成16年よりササユリ採取活動を休止し、保護育生活動に重点を移す。今年で11年目となる。

平成27年自然公園関係功労者環境大臣表彰を受賞。



【徳島県立 新野高等学校】

昭和60年より、バイオテクノロジーにより球根増殖の研究に取り組み、昭和62年より、伊島中学校との保護活動を開始。保護活動は今年で29年目を迎える。

平成27年、室戸阿南海岸国定公園指定50周年自然環境保全功労者表彰、「緑の日」自然環境功労者環境大臣表彰をそれぞれ受賞。

■会場へのアクセス■



■阿南ひまわり会館

〒774-0030
徳島県阿南市富岡町北通33-1
TEL 0884-23-6600

【アクセス】

JR阿南駅東出口から徒歩約5分
駐車場は、隣接の阿南市市民会館前駐車場をご利用ください。



伊島の豊かな自然 保全と活用を目指して

2017
2/25 (sat.)

13:00~16:00
富岡公民館 2階大ホール

参加無料

主催：阿南市、阿南工業高等専門学校、
阿南市 KITT 賞賛推進会議、伊島ささゆり保全の会
後援：徳島新聞社、四国放送株式会社

お問い合わせ：阿南市環境保全課 0884-22-3413

地域活性化に向けた協働取組フォーラム
第4回阿南市生物多様性フォーラム

伊島ささゆり保全活動や先進事例を、講演していただき、また、伊島をモデルにその豊かな自然と活用を促進し、本市の生物多様性の保全・活用について協議することで、地元活性化につなげることを目的としています。

伊島の豊かな自然 保全と活用を目指して

伊島は、「阿南市生物多様性ホットスポット」の一つ

伊島では、島の宝であり、里山を代表する花「ササユリ」をシンボルに、豊かな自然を守り・活用する活動をすすめています。

里地・里山保全の先進地のお話を聞いて、「保全しながら活用する」「地域活性化につなげる」しくみについて一緒に考えませんか。

里山の保全や活用に興味のある方、ぜひご参加下さい。

プログラム

第1部 13:00~14:50 (休憩含む)

挨拶：岩浅嘉仁（阿南市長）

趣旨説明

伊島ささゆり保全の会（モデル地区協議会）紹介

協議会活動報告（伊島中学校）

講演 東お多福山における草原保全活動の10年
～その成果と課題～

橋本佳延（兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員）

講演 人と山の新しい付き合い方

白川勝信（北広島町立芸北高原の自然館 主任学芸員）

第2部 パネルディスカッション 14:50~15:45

テーマ 里地里山の保全と活用の促進

コメントーター：鎌田磨人（徳島大学教授）

鈴江省吾（阿南市市民部長）

岡野隆宏（環境省 保全再生調整官）

コーディネーター：大田直友（阿南工業高等専門学校）

～阿南生物多様性ホットスポット 未来への展望～

未来へのけじめよ！ あなんひまわり自然

2018
2/10

13:00-16:00
(受付開始 12:30)

阿南ひまわり会館
2Fふれあいホール

参加無料 申込不要

直接会場にお越しください

あなん未来会議

特別講演

東邦大学 長谷川先生

NHK ゲーヴィンが来た！を
イシガメを追跡！！

第五回
阿南市

生物多様性
フォーラム

研究発表

日和佐中学校
阿南高専

パネル
ディスカッション
未来への展望

主催：阿南市、阿南工業高等専門学校、あなん未来会議 後援：徳島新聞社、四国放送株式会社
問合せ：阿南市環境保全課 TEL 0884-22-3413

プログラム 13:00～15:55（休憩含む）

開会、挨拶：岩浅嘉仁（阿南市長）

趣旨説明

【第1部】次世代を担う生徒たちの研究発表

日和佐中学校

チゴガニのウェービングの研究

阿南工業高等専門学校

干潟巻き貝の不可思議な垂直移動

【特別公演】生き物大好き「トカゲのおかげ」

長谷川雅美（東邦大学教授）

【第2部】阿南市ホットスポット活動紹介

オヤニラミの復活

（日亜化学工業株式会社）

那賀川河口干潟

（国交省那賀川河川事務所）

伊島ササユリ（伊島ささゆり保全の会）

出島野鳥園（日本野鳥の会）

～休憩～

【第3部】パネルディスカッション

「阿南市ホットスポット」未来への展望

コーディネーター：大田直友

登壇者 阿南市ホットスポット活動の担い手（4名）

あなん未来会議（長谷川雅美、古田尚也）

まとめ、閉会

生物の多様性、森里川海の恵み、

地域のあしたを考える

2015年2月、

阿南市では豊かな自然を守り・

活用するために「未来に残すべき生物

多様性ホットスポット」を6ヶ所選定しました。

そこで、選定3周年を迎え、今後の活動をさらに活性化するために生物多様性フォーラムを開催します。

フォーラムではいくつかのホットスポットの取り組みを紹介します。

また共催事業としてあなん未来会議委員の東邦大学長谷川教授から

ご講演をいただき、パネルディスカッションでは、横のつながりを意識した活動の連携やホットスポットを

さらに活用していくための生物多様性地域戦略

策定や未来の子ども達にどう

伝えていくかなどを

議論します。

平成27年2月に選定された阿南市生物多様性ホットスポット 6ヶ所



長谷川雅美（はせがわ まさみ）

千葉県在住 1958年生まれ
東邦大学理学部生物学教授で、伊豆諸島爬虫類の研究をはじめ、里山のカエル類の保全など地域との連携による自然教育を実践しており、2016年にはNHKの「ダーウィンが来た」で里山に生きるイシガメを追跡し大きな反響を呼び。たびたび伊島を訪れる「伊島は日本のガラパゴス」と絶賛し、あなん未来会議委員として子供達が自然に触れ合う大切さを熱く語っている。



古田尚也（ふるた なおや）

1967年神奈川県生まれ
大正大学地域構造研究所教授。東京大学大学院農生命科学研究科博士課程。三菱総合研究所を経て、2009年よりIUCN（国際自然保護連合）の日本オフィスにおいて生物多様性に関する国内外の政策展開に従事する。



■会場へのアクセス

阿南ひまわり会館 2Fふれあいホール
〒774-0030
徳島県阿南市富岡町北通 33-1
TEL 0884-23-6600

○汽車でお越しの方
JR 阿南駅東口から徒歩約 5 分
○車でお越しの方
駐車場は隣接の★阿南市市民会館前駐車場をご利用ください



第6回 阿南市生物多様性フォーラム

生物多様性とは、「豊かな自然とその恵み」の総称です。生きものが生み出す大気や水、食べ物やエネルギーは我々の暮らしを支え、文化や伝統はその上に成り立っています。

阿南市では2015年、みんなで守り引き継ぎたい素晴らしい自然をして次のステップとして、ホットスポットを核とした四国市町村初の「生物多様性あんん戦略（仮称）」策定を目指しています。戦略策定によって、長期的・横断的な視野で阿南の豊かな自然を守りつつ活用し、阿南市が活性化されることが期待されます。

本フォーラムでは、すでに生物多様性地域戦略を策定し、地域づくりに活用している先進地の新潟県佐渡市から「地域の生きものを活かして儲ける」事例について学びます。また、「地域の自然が防災に役立つ」という視点からグリーンインフラの概念を学びます。そして、「生きものを活かした阿南の未来づくり」についてみんなで考えるワークショップをします。

四国で最も進んだ「生きもののまち阿南」をみんなで創造しませんか？

講師紹介

渡辺 竜五（佐渡市農林水産課）

佐渡米の生物多様性ブランドによる販売力の強化とトキの餌場づくりを両立することを目的として、トキと暮らす郷づくり認証制度を設計。佐渡と能登地域の「世界農業遺産」認定に貢献。持続可能な生物多様性保全と地域づくりに取り組む。

岩浅 有記

（環境省那覇自然環境事務所（沖縄・奄美）野生生物課長（企画官））

阿南市福井町出身。環境省では、佐渡におけるトキの野生復帰に関わる。国土交通省在籍時には、自然生態系の多機能性を活かした防災減災技術としてのグリーンインフラの取り組みを推進。人と自然が共生する、持続可能な循環型社会の構築に取り組む。

13:00～

開会、挨拶（阿南市長）
趣旨説明（大田）

13:10～14:20

【第1部】基調講演
①「トキをシンボルとした生物多様性戦略の実現に向けて」
渡辺竜五（佐渡市農林水産課）
②「グリーンインフラによる次世代のまちづくり」
岩浅有記（環境省那覇自然環境事務所）

14:20～14:40

【第2部】生物多様性あんん戦略（仮称）策定に向けて
大田直友（阿南工業高等専門学校）

休憩

14:55～15:55

【第3部】会場全体ワークショップ
「生きものを活かした阿南の未来づくり」

15:55

閉会挨拶



生物多様性とは、「豊かな自然とその恵み」の総称です。生きものが生み出す大気や水、食べ物やエネルギーは我々の暮らしを支え、文化や伝統はその上に成り立っています。

阿南市では2015年、みんなで守り引き継ぎたい素晴らしい自然をして次のステップとして、ホットスポットを核とした四国市町村初の「生物多様性あんん戦略（仮称）」策定を目指しています。戦略策定によって、長期的・横断的な視野で阿南の豊かな自然を守りつつ活用し、阿南市が活性化されることが期待されます。

本フォーラムでは、すでに生物多様性地域戦略を策定し、地域づくりに活用している先進地の新潟県佐渡市から「地域の生きものを活かして儲ける」事例について学びます。また、「地域の自然が防災に役立つ」という視点からグリーンインフラの概念を学びます。そして、「生きものを活かした阿南の未来づくり」についてみんなで考えるワークショップをします。

四国で最も進んだ「生きもののまち阿南」をみんなで創造しませんか？

阿南ひまわり会館 ふれあいホール

申込:不要 直接会場にお越しください

主催:阿南市、阿南工業高等専門学校 後援:徳島新聞(予定)、四国放送(予定)

お問い合わせ:阿南市環境保全課 TEL0884-22-3413

詳しく述べ面へ

参加費無料

2019年2月9日(土) 13:00～16:00

(受付開始12:30)

基調講演

渡辺竜五（佐渡市農林水産課）

「トキをシンボルとした生物多様性戦略の実現に向けて」

岩浅有記（環境省那覇自然環境事務所）

「グリーンインフラによる次世代のまちづくり」

詳しく述べ面へ

2/8
2020 13:00~16:00
(sat.) 受付開始 12:30

阿南ひまわり会館
ふれあいホール

(阿南市富岡町北通 33番地1)

参加費無料・申し込み不要

第7回 阿南市生物多様性フォーラム

生物多様性 あなん 戦略

みんなで
盛り上げよう！



四国の中の基礎自治体において、初めて策定されました「生物多様性あなん戦略」。本フォーラムではこの理念や方針、阿南市生物多様性ホットスポットを核とする、戦略の実現に向けた最新の動きをお伝えします。

主催:阿南市、阿南工業高等専門学校 後援:徳島新聞、四国放送
お問い合わせ:阿南市環境保全課 0884-22-3413

講師紹介

伊東啓太郎

(九州工業大学 建設社会工学科教授)

第2次福津市環境基本計画・生物多様性ふくづプランを策定した2014年から現在まで、継続して福津市の環境づくりと生物多様性保全に関するプロジェクトを推進。生態学、環境デザイン、認知心理学をベースに、都市・地域の環境デザイン、森林などの自然環境保全、都市の緑の在り方・緑化デザイン手法について研究。

四国の中の基礎自治体において、初めて策定されました「生物多様性あなん戦略」。本フォーラムではこの理念や方針、阿南市生物多様性ホットスポットを核とする、戦略の実現に向けた最新の動きをお伝えします。さらに、本フォーラムでは、生物多様性を含む阿南市の環境基本計画改定に向け、先進地である福岡県福津市の事例について、九州工業大学の伊東啓太郎先生よりご講演いただきます。阿南市は豊かな自然環境と豊かな産業を未来の子どもたちへ伝えていくため、学び行動ができるまちづくりをみんなで担っていきませんか。



program

13:00~ 開会挨拶

13:10~ 第1部 「生物多様性あなん戦略」公表

概略説明

13:30~ ホットスポット行動計画

アウトドアとSDGs

Outdoor & Tent Club 谷崎信弥

「那賀川自然再生事業」に向けた取り組み

国土交通省那賀川河川事務所 青木朋也

出島野鳥園の活動と行動計画

日本野鳥の会徳島県支部 宮本勇

生物多様性あなん戦略推進協議会の設立

阿南工業高等専門学校 研究員 坂本真理子

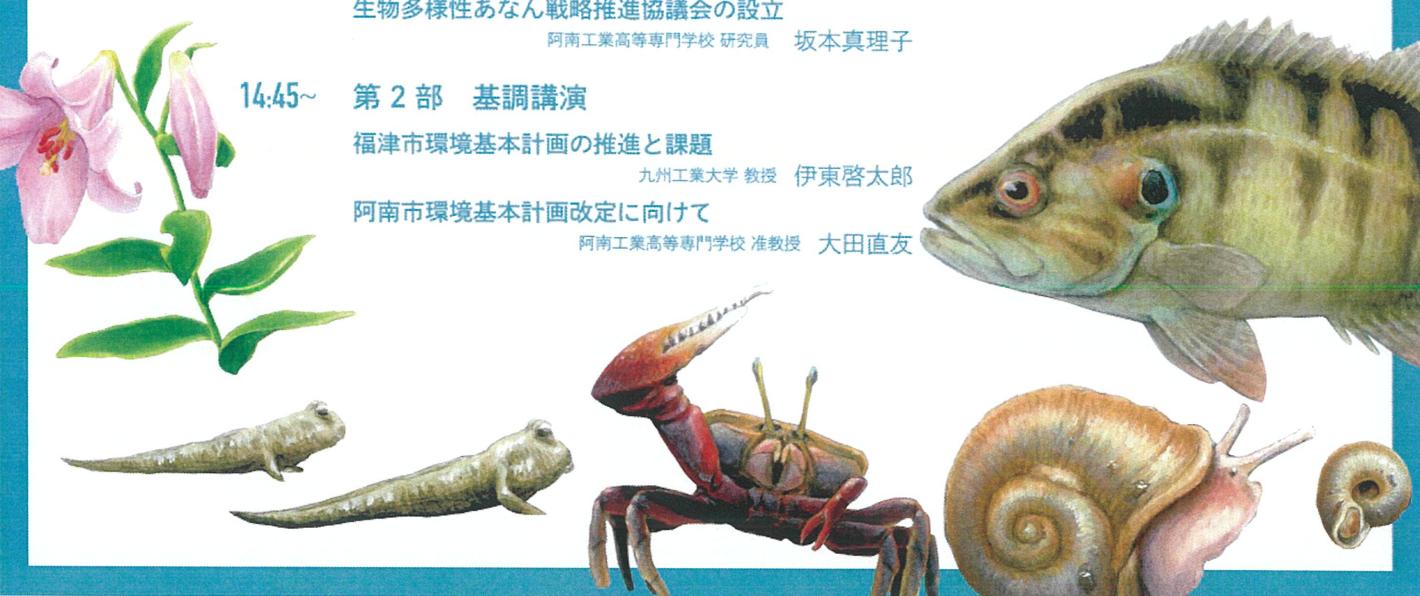
14:45~ 第2部 基調講演

福津市環境基本計画の推進と課題

九州工業大学 教授 伊東啓太郎

阿南市環境基本計画改定に向けて

阿南工業高等専門学校 准教授 大田直友



生物多様性あなん戦略